

「障害者の社会参加に関する特別世論調査」の概要

平成17年 2月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国20歳以上の者3,000人
有効回収数：2,047人（回収率68.2%）
調査期間 平成17年1月13日～1月23日
- 調査目的 障害者の社会参加に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目 (1) 「共生社会」の知名度及び考え方について
(2) 身近に障害のある人がいたことがあるか
(3) 将来自分や家族が障害のある状態にあることがあり得ると思うか
(4) 障害のある人の相談相手や手助けをしたことがあるか
(5) 障害のある人の社会参加の機会を広げるためにできること

<お願い>

本資料の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを下記宛に御送付ください。

**内閣府大臣官房政府広報室
世論調査担当**

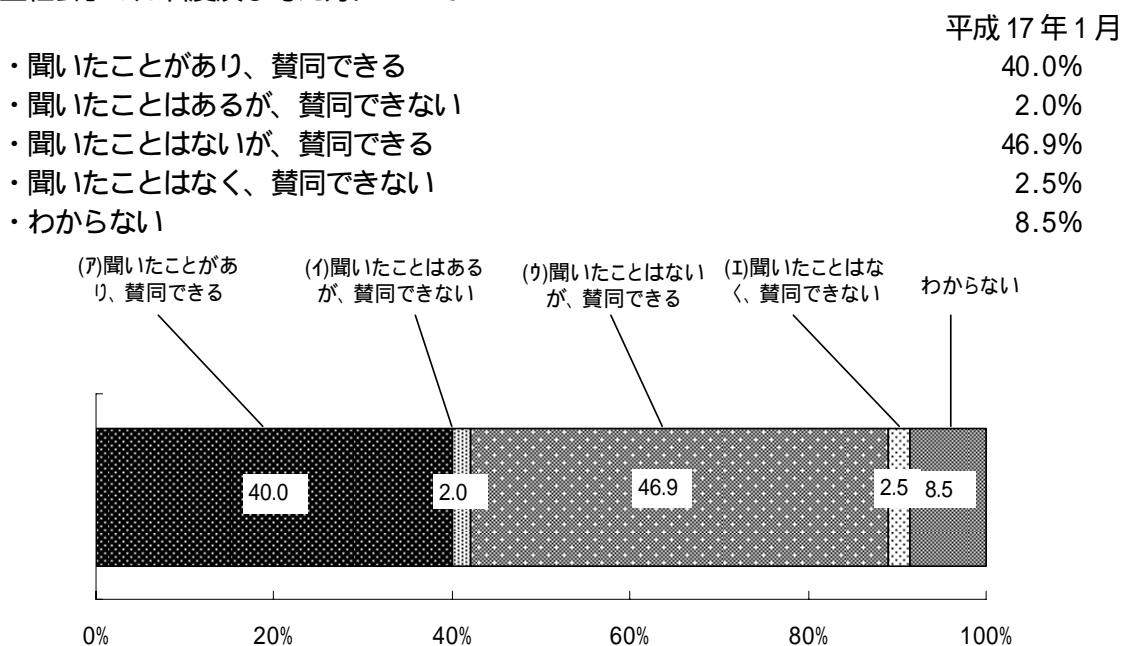
〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1
電話 03(5253)2111 内線 82780～82783

「障害者の社会参加に関する特別世論調査」の要旨

平成 17 年 2 月
内閣府政府広報室

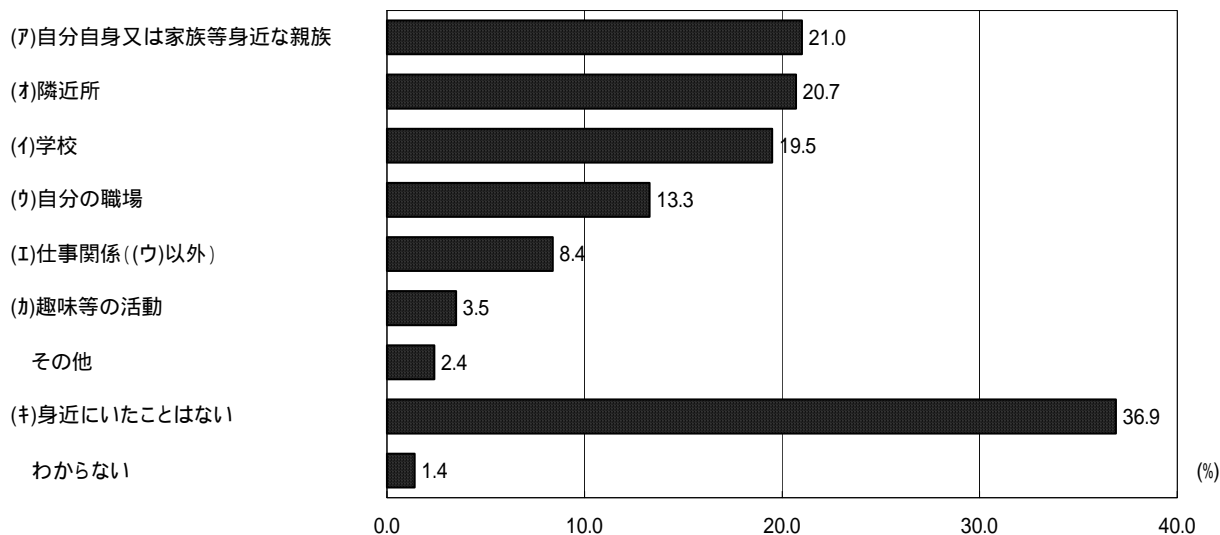
調査時期：平成 17 年 1 月 13 日から平成 17 年 1 月 23 日
調査対象：全国 20 歳以上の者 3,000 人
回収結果：2,047 人 (68.2%)

1 「共生社会」の知名度及び考え方について



2 身近に障害のある人がいたことがあるか（複数回答）

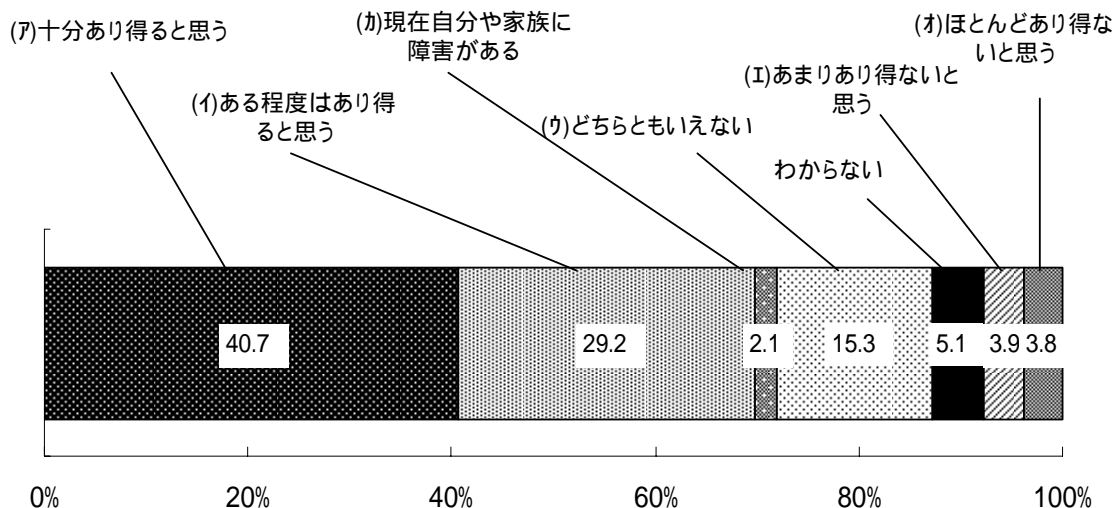
・自分自身又は家族等身近な親族	21.0%
・隣近所	20.7%
・学校	19.5%
・自分の職場	13.3%
・身近にいたことはない	36.9%



3 将来自分や家族が障害のある状態にあることがあり得ると思うか

平成 17 年 1 月

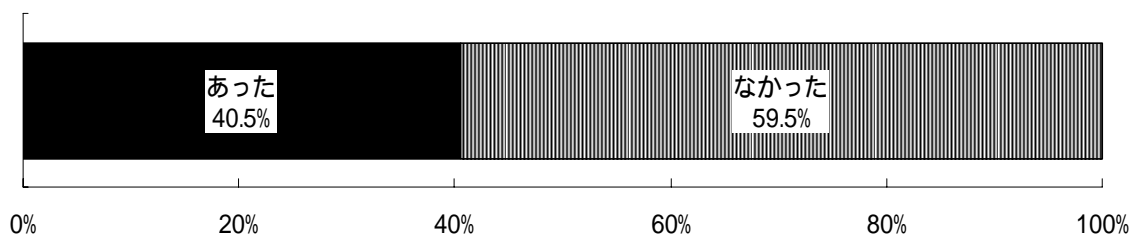
- ・十分あり得ると思う 40.7%
- ・ある程度はあり得ると思う 29.2%
- ・どちらともいえない 15.3%
- ・あまりあり得ないと思う 3.9%
- ・ほとんどあり得ないと思う 3.8%
- ・現在自分や家族に障害がある 2.1%



4 障害のある人の相談相手や手助けをしたことがあるか

(1) 障害のある人の相談相手や手助けをしたことがあるか

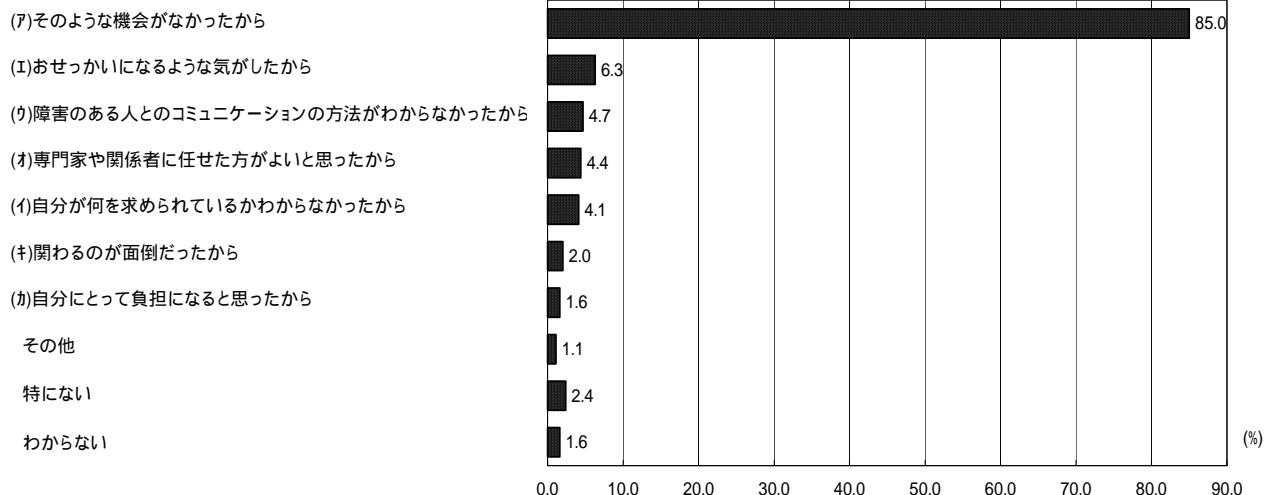
- ・あった 40.5%
- ・なかった 59.5%



(2) 相談や手助けをしたことがない理由(「相談や手助けをしたことがなかった」と答えた者(1,217人))

(複数回答)

- ・そのような機会がなかったから 85.0%

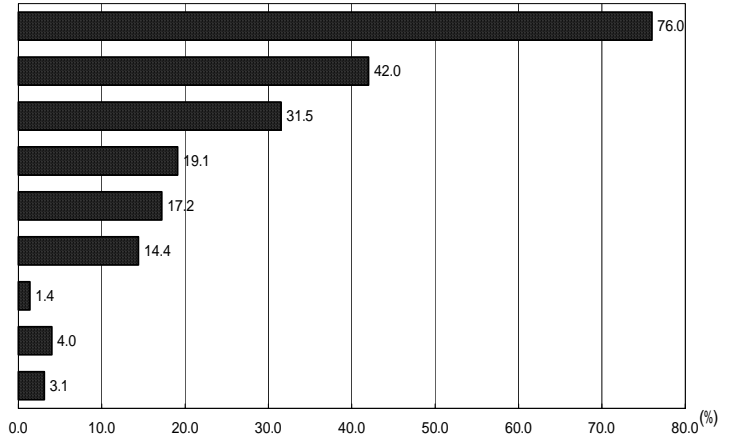


5 障害のある人の社会参加の機会を広げるためにできること（複数回答）

平成 17 年 1 月

- ・困っていきそうな場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする 76.0%
- ・点字ブロックの上に物を置かない等、障害のある人のための施設や設備の利用を妨げないように注意する 42.0%
- ・仕事や地域活動をする上で、障害のある人のことも考えてみる 31.5%
- ・障害者に関するボランティア活動に参加する 19.1%
- ・簡単な挨拶ができる手話等のコミュニケーション方法を身につける 17.2%
- ・障害疑似体験（アイマスクや車いすを使っでの体験）など障害について学ぶ機会があれば、参加してみる 14.4%

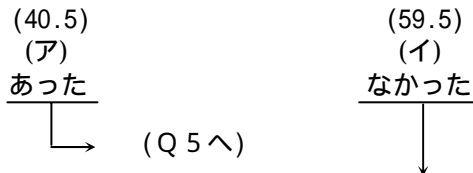
- (ア)困っていきそうな場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする 76.0
- (イ)点字ブロックの上に物を置かない等、障害のある人のための施設や設備の利用を妨げないように注意する 42.0
- (ウ)仕事や地域活動をする上で、障害のある人のことも考えてみる 31.5
- (カ)障害者に関するボランティア活動に参加する 19.1
- (オ)簡単な挨拶ができる手話等のコミュニケーション方法を身につける 17.2
- (イ)障害疑似体験（アイマスクや車いすを使っでの体験）など障害について学ぶ機会があれば、参加してみる 14.4
- その他 1.4
- 特になし 4.0
- わからない 3.1



Q 3 〔回答票 20〕あなたは、将来において、自分や家族が障害のある状態になることがあり得ると思いますか。それともそうは思いませんか。この中から 1 つだけお答えください。

- (40.7) (ア) 十分あり得ると思う (3.8) (オ) ほとんどあり得ないと思う
(29.2) (イ) ある程度はあり得ると思う (2.1) (カ) 現在自分や家族に障害がある
(15.3) (ウ) どちらともいえない (5.1) わからない
(3.9) (エ) あまりあり得ないと思う

Q 4 〔回答票 21〕あなたは、障害のある人の相談相手になったり、手助けをしたことがありましたか。



S Q 〔回答票 22〕そのようなことがなかったのはどうしてでしょうか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.) (N=1,217)

- (85.0) (ア) そのような機会がなかったから
(4.1) (イ) 自分が何を求められているかわからなかったから
(4.7) (ウ) 障害のある人とのコミュニケーションの方法がわからなかったから
(6.3) (エ) おせっかいになるような気がしたから
(4.4) (オ) 専門家や関係者に任せた方がよいと思ったから
(1.6) (カ) 自分にとって負担になると思ったから
(2.0) (キ) 関わるのが面倒だったから
(1.1) その他 ()
(2.4) 特にな
(1.6) わからない

(M.T. = 113.1)

Q 5 〔回答票 23〕障害のある人の社会参加の機会を広げるために、あなた自身にできると思われることは何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

- (76.0) (ア) 困っていそうな場面を見かけたら、一声かけて自分にできる手伝いをする
(42.0) (イ) 点字ブロックの上に物を置かない等、障害のある人のための施設や設備の利用を妨げないよう注意する
(31.5) (ウ) 仕事や地域活動をする上で、障害のある人のことも考えてみる
(14.4) (エ) 障害疑似体験 (アイマスクや車いすを使っての体験) など障害について学ぶ機会があれば、参加してみる
(17.2) (オ) 簡単な挨拶ができる手話等のコミュニケーション方法を身につける
(19.1) (カ) 障害者に関するボランティア活動に参加する
(1.4) その他 ()
(4.0) 特にな
(3.1) わからない

(M.T. = 113.1)